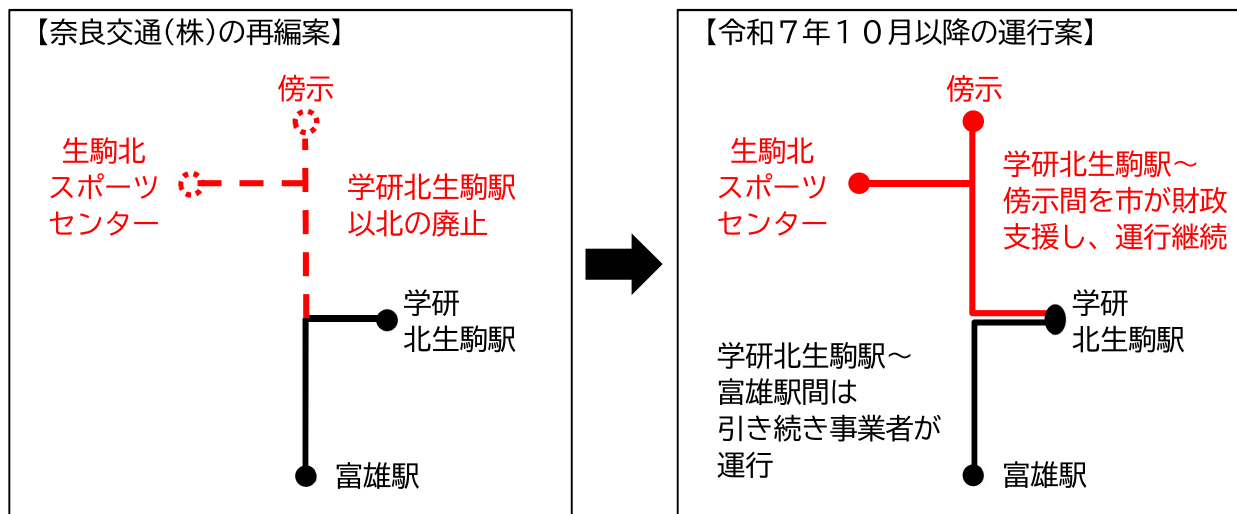


生駒市地域公共交通利便増進実施計画について（第2回分科会報告）

1. 富雄庄田線の路線再編案について（前回協議会資料 再掲）

令和4年3月に奈良交通(株)から、富雄庄田線のうち、傍示・生駒北スポーツセンター～学研北生駒駅間の廃止案が提示されたが、バス路線廃止による地域への影響が大きいことから、対象区間のバス路線の存続に向けて、市と奈良交通(株)とで協議を続けていた。

令和6年3月15日に「生駒市と奈良交通株式会社との連携・協力に関する協定書」を締結し、傍示・生駒北スポーツセンター～学研北生駒駅間については、市が財政支援を行うことで、以下のとおり令和7年10月以降も運行を継続する。



富雄庄田線の運行を継続していくため、令和7年10月に富雄庄田線を傍示方面～学研北生駒駅と学研北生駒駅～富雄駅の2つの路線に分割して運行を効率化し、地域公共交通利便増進実施計画（以下、利便増進計画という）を策定して利便性向上による利用者の増加を通じて収支改善を図る。

2. 第2回分科会開催概要

- ・日時：令和6年11月29日（金）午後2時～午後3時30分
- ・場所：生駒市コミュニティセンター401
- ・出席者：（委員）領家副市長（会長）、室崎委員（副会長）、阪本委員、新井委員、大西委員（代理：松石様）、本田委員（代理：内藤様）、深田委員（代理：坂下様）
（事務局）生駒市（米田建設部長、谷事業計画課長、菊池事業計画課交通対策係員）、一般社団法人システム科学研究所（加藤、高橋、柿藺）

分科会の詳細は生駒市 HP で公開中



3. 第2回分科会の議事内容

決定したことや主なご意見は次の通りである。なお、議事概要は資料4 参考資料1に掲載する。

3.1. 高山地区住民アンケート調査結果について

- ・富雄庄田線の利用目的は、通勤・通学が少なく、買い物と通院とその他（飲み会など）が多い。学研北生駒駅→傍示方面の終発時間を延長できれば、通勤や飲み会後のバス利用が増える可能性がある。
- ・富雄庄田線利用の最終目的地は、多い方から学研北生駒駅、大阪・神戸方面、奈良方面、生駒駅周辺、高山町内、富雄駅周辺、学研奈良登美ヶ丘駅周辺、その他生駒市内の順となっている。
- ・富雄庄田線利用で困っていること、あるいは富雄庄田線を利用しない理由について、獅子ヶ丘・久保・宮方では「自宅からバス停まで歩くことが大変」と答えた方の割合が大きい。獅子ヶ丘は、生駒北スポーツセンターまで平日に運行することで課題が解決するかもしれないが、久保・宮方は、主な集落とバス停の距離が遠いため、富雄庄田線の運行時刻の変更等だけでは解決できないことに留意すべきである。
- ・学研北生駒駅へ行く際の移動実態として、富雄庄田線利用者・非利用者ともに朝7～10時台がピークとなっている。学研北生駒駅から帰る際は17～19時台がピークであり、それ以降も一定数の移動がある。
- ・富雄庄田線の路線再編による自分の生活や地域への影響について、「良くなる」・「やや良くなる」が「やや悪くなる」・「悪くなる」を上回る。ただし、富雄庄田線の利用頻度が高くなるほど「変わらない」が少なくなる一方で、「良くなる」・「やや良くなる」と「やや悪くなる」・「悪くなる」の両方の割合が大きくなっている。この要因として、路線再編が自分の生活に影響すると感じている一方で、それが良いことなのか悪いことなのか、利用者にうまく伝わっていない可能性がある。地域に今後しっかりと情報提供し、学研北生駒駅での近鉄けいはんな線との乗り継ぎがスムーズになるといった路線再編のメリットを利用者にうまく伝えていく必要がある。
- ・学研北生駒駅でのバス同士の乗り継ぎが発生することから、駅周辺で快適に待つことができる場所の整備もあわせて考える必要がある。
- ・アンケート調査結果を踏まえた高山地区住民からの意見について、費用面や運転手不足の問題から運転手の増員につながる変更は難しいが、市・奈良交通で今後も協議し、対応できる範囲内で利便増進を図る。

3.2. 富雄庄田線の利便増進方針について

- ・令和7年10月からの富雄庄田線の再編実施に向けて、市・奈良交通で協議しながら、具体的なダイヤ等を検討していく。モビリティマネジメントは、再編実施以降に実施する。
- ・学研北生駒駅～傍示は片道30分・往復1時間であり、昼間時間帯はパターンダイヤに変更する。一方で、学研北生駒駅～生駒北スポーツセンターは片道40分でパターンダイヤ化が難しく、現在の輸送規模のまま平日すべての便で生駒北スポーツセンターまで行くことはできな

い。生駒北小中学校の通学時間帯は生駒北スポーツセンターまで運行するなど、バランスの取れたダイヤを検討する必要がある。

- ・ 富雄庄田線の利用状況や高山地区住民アンケート調査結果から、学研北生駒駅での富雄庄田線と近鉄けいはんな線の乗り継ぎを考慮した運行時刻に変更するが、学研北生駒駅～富雄駅のバスとの乗り継ぎも一定考慮する。なお、北コミュニティセンターISTA はばたきで証明書の発行等を行う住民がいることから、バス同士の乗り継ぎで待ち時間が発生する場合には、他に発行可能な施設（例えばコンビニ等）を案内するといった配慮が必要である。
- ・ 地域公共交通利便増進実施計画を国土大臣に認定申請するためには、計画期間内は利便増進方針通りに運行するという奈良交通との同意書が必要になる。

4. 富雄庄田線の利便増進方針（案）について

富雄庄田線の利用状況や高山地区住民アンケート調査結果等に基づき、地域公共交通利便増進実施計画の利便増進方針（案）については以下のとおりとする。

○運行経路の見直し・変更

- ・ 富雄駅～学研北生駒駅～傍示方面までの運行を学研北生駒駅～傍示方面に短縮し、富雄駅周辺の混雑区間を運行しないことで、定時性を向上。
- ・ 土日祝のみ運行している学研北生駒駅～生駒北スポーツセンター系統を平日にも運行し、獅子ヶ丘地区の生活利便向上と、くろんど池直近へのバス停の新設によるくろんど池の観光利用の促進。

○バスの増便

- ・ 帰宅時間帯の学研北生駒駅→傍示方面のバスを増便することで、利用者利便を向上。

○バスの運行時刻の変更

- ・ 帰宅時間帯の学研北生駒駅→傍示方面のバスの終発時間を延長（庄田終点のバスを傍示終点に変更）し、庄田以北の利用者利便を向上。
- ・ 学研北生駒駅での鉄道・バス乗継を考慮した運行時刻に変更し、乗継利便を向上。
- ・ 生駒北小中学校の通学時間に合わせた運行時刻に変更し、通学利便を向上。
- ・ 昼間時以降のダイヤを一定間隔で周期的に運行するパターンダイヤに変更し、利用者利便を向上。

○運賃の見直し

- ・ 傍示方面～学研北生駒駅と学研北生駒駅～富雄駅のバスにおいて、乗継割引を適用し、富雄方面への乗継利便を向上。（交通系 IC カード利用者のみが対象）

○モビリティマネジメントの実施

- ・ 公共交通マップや時刻表の配布等のモビリティマネジメントを実施し、路線の認知度向上、利用促進を図る。

5. 今後のスケジュール

現在、利便増進計画（案）を事務局で作成中である。利便増進計画の策定に向けたスケジュールは次の通りである。

(令和6年度)		
↓	6月～7月	利用者データ分析
↓	7月18日	第1回分科会 調査票内容等検
↓	7月下旬～8月	調査票作成
↓	9月	調査票配布
↓	9月18日	第2回協議会 調査方法・内容等報告
↓	10月～11月	調査票回収・分析
↓	12月	第2回分科会 利便増進方針検討
↓	12月25日	第3回協議会 利便増進方針提示
↓	2月	第3回分科会 計画案検討
↓	3月19日	第4回協議会 利便増進計画案審議
↓	3月中	利便増進計画策定・地域公共交通計画の改訂
(令和7年度)		
↓	5月	国土交通大臣の認定
↓	10月1日	再編実施